様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 4 日現在

機関番号：14301
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011 ～ 2012
課題番号：23651036
研究課題名（和文）　民族性に着目したダム開発による村落移転の影響とレジリエンス評価

研究課題名（英文）Evaluating Impacts and Community Resilience of Dam-displaced Indigenous Villages in Central Vietnam

研究代表者
シンガー　ジェーン（SINGER JANE）
京都大学・地球環境学堂・准教授
研究者番号：00570003

研究成果の概要（和文）：ベトナム中部山間地域における、水力発電計画によるダム開発で強制的移住した少数民族を研究対象とした。移住による生活環境の変化やコミュニティの変容を考察し、移住後に再構築されるコミュニティにおいて、レジリエンスの向上させるために必要な資源を調査研究することを目的とした。結果、移住後の生活保障や食糧確保といった再構築過程には代替農地の確保等が不可欠であることが明らかとなった。一方で先住少数民族村落の結束力といった社会的資源が移住後のレジリエンスを強化していることも検証された。

研究成果の概要（英文）：This project investigated the post-resettlement conditions of ethnic minority villagers in an upland area of central Vietnam who had been displaced by hydropower dam construction in order to understand the impacts of displacement on livelihoods and living conditions and to assess the resources that residents can harness. The researchers found that a lack of sufficient fertile land were major constraints for livelihoods and food security. However, strong community ties and other social and cultural capital enhanced post-resettlement community resilience.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：環境学・環境影響評価・環境政策
キーワード：ダム建設に伴う強制移、先住少数民族、再定住、住民参加、物的資本、社会資本、コミュニティ・レジリエンス

１．研究開始当初の背景

ベトナムでは毎年、1 千万～1 千 500 万人の住民がダム建設に伴う開発によって、移住を余儀なくされている（Cernea 1999）。そうした多くの住民は、長年暮らした家や農地を手放すだけでなく、移住後には食糧不足、社会的ストレス、家族問題、貧困の拡大、文化的つながりの分断、精神的な苦悩を抱えると言われてきた（Kedia, 2009）。移住の対象地に暮らす住民の多くが低所得層で、教育のレベルも高くはない先住少数民族であることから、職業選択の自由も限られてきた。こうした背景に加えて、地方政府やダム開発プロジェクトの担当行政官らによる移住プロジェクト・スキームは、民族固有の宗教信仰やコミュニティの独自性、社会構造などを充分に考慮しておらず、そのためにローカル・コミュニティの分断やプロジェクトへの不満を生む結果になっているとの指摘が寄せられてきた（Downing and Garcia-Downing, 2009）。ダム建設とそれに伴う移住計画は今後もベトナム政府の政策として拡大される

こととなっており、こうした移住の影響を検証し、移住後の生活の向上と社会システムの再構築につながるような計画を考察することが必要となっている。

ベトナムでは近年の急激な経済成長に伴って電力の需要も急増しており、ダム建設ラッシュが起こり、移住を余儀なくされる人々の数も年々増加している。ベトナム政府は補償や、移住プロジェクトに関する意思決定過程への住民参加等を盛り込んだ、新たな法律を制定するなどして対応を試みているものの、実際の政策の執行権が地方政府にあることから、各省によって対応に大きな差が生じている。

本研究ではベトナム中部の山間地域の２つの移住村を調査の対象とし、移住のインパクトを検証し、移住後の住民がどのような手法で彼らのコミュニティを再構築しているのかを考察した。調査対象としたのは先住少数民族のカトゥ族のコミュニティで、2005 年に A Vuong 川に中型のダム建設が開始され、その後川が氾濫するまで、A Vuong 川上流の山間地域に居住していた

[参考文献]
Cernea, M., “The Risks and Reconstruction Model for Resettling Displaced Populations.” World Development, Vol. 25., No. 10, 1999, pp. 1569-1575.

Downing, T.E. and Garcia-Downing, C. “Routine and Dissonant Cultures: A Theory about the Psycho-socio-cultural Disruptions of Involuntary Displacement and Ways to Mitigate Them without Inflicting Even More Damage,” in Development & Displacement: The Crisis of Forced Displacement and Resettlement, ed. by A. Oliver-Smith. Santa Fe: School for Advanced Research Press, 2009.

Kedia, S. “Health Consequences of Dam Construction and Involuntary Resettlement,” in Development & Displacement: The Crisis of Forced Displacement and Resettlement, ed. by A. Oliver-Smith. Santa Fe: School for Advanced Research Press, 2009.

２．研究の目的

本プロジェクトではベトナム中部の山間地域における、水力発電計画よるダム開発で強制的に移住を余儀なくされた少数民族の移住後の状況を研究対象とした。ダム開発に伴う移住によって生じる生活環境の変化やコミュニティの変容を考察し、移住後に再構築されるコミュニティにおいて、レジリエンスの向上させるために必要な資源を調査研究することを目的としている。

３．研究の方法

調査地としたクアンナム省（Quang Nam Province）の Tay Giang 地区と Dong Giang 地区の２つのフィールドにおいて、異なる専門分野の研究者らによる学際的な調査チームを組織し、2 年間のプロジェクト期間に約 9 回のフィールド調査を実施して同コミュニティの詳細なデータを収集した。ベトナムでは少数民族によって言語も異なるため、調査には少数民族の言語とベトナム語の通訳にも同行してもらった。

フィールド調査には多様な社会調査手法を採用し、定量的調査と質的調査の双方から詳細な状況把握と評価に努めた。このため、マッピング、住環境空間の測定、住民アンケートを実施すると共に、半構造的インタビュー（semi-structured interviews)、及びフォーカスグループ・ミーティングを行った。少数民族住民への調査と並行して、ダム開発計画のステークホルダーであるベトナム政府の少数民族政策の担当者、地方自治体の開発担当者、該当地域で研究を行ってきた文化人類学の研究者、ベトナム国内外の NGO 関係者、開発コンサルタントにも個別のインタビューを実施した。

加えて比較研究を実施するために、本プロジェクトの調査チームは更に同じ少数民族が移住した３つの移住村においてもフィールド調査を行った。同時に今回の移住を住民側の立場から支援してきた、ベトナム国内の NGO とベトナムの大学の研究者といった、いわば二次的ステークホルダー（external stakeholders）に対しても聞取り調査等を行った。

４．研究成果

本研究プロジェクトを通じて次の点が明らかとなった。

（１）移住後の新コミュニティではインフラ（物的資本）は大きく向上したが、自然資本は減少した。特に農地の質と耕作面積の減少が要因となり食糧不足と貧困が深刻化している。

(2) ベトナムでは法律によって開発政策によって生じる移住に対する補償と、アセスメントへの住民参加が規定されているものの、実際には移住民は十分な補償を受けておらず、移住地の選出や移住後の住環境整備計画の決定過程において自主的参加が認められていなかった。これにより、少なくとも調査地のひとつでは、住民は土砂崩れの危険の高い地域に移住を余技なくされることになり、

結果として更に別の土地へ移住せざるを得ない状況が生じている。

現地での調査からは移住用の住居として提供された家屋は間取りも狭く、脆弱な作りであることが分かった。現地での調査からは移住用の住居として提供された家屋は間取りも狭く、脆弱な作りであることが検証された。このため移住者は転居後に、提供された欠陥のあるトイレや階段を修理するなどせざるを得なくなった。また彼らが伝統的に使用してきた台所なども自ら改築をせざるをえなかった。提供住宅は欠陥が多く、居住困難な状態であったために、家庭農園のために確保していた土地に別途住居の建設を行わなければならなくなり、移住民は多額の出費と食糧不足に陥っている。また新住居の建設のために、森林保護区から建設用に木材を伐採するなどしており、環境への影響も懸念されている。

(3) 移住後も住民の絆は強く、村の名前を以前と同様に使用するなど、社会的・文化的資本は揺るがず、コミュニティの結束が移住によって崩壊することはなかった。

移住後の新コミュニティでは少数民族の伝統と手法を駆使し、伝統的地域活動の中心となるコミュニティハウスが建設された。また個々の住居においても、伝統的様式の台所の設置など、これまでの伝統を継承した住環境を創造するリフォームが積極的に行われている。こうしたことからも、移住後のレジリエンスの向上には伝統的信仰、習慣様式を考慮した移住計画の促進が重要となることが示されている。

(4) これまでに述べたように、移住に伴う課題として明らかになった、移住先で提供された土地の質や面積の問題と、移住計画に際する住民参加の問題は、ベトナム政府も認めるところであり、ベトナム政府は今後、こうした大規模な移住計画に対して新たなアプローチの手法が必要であるとの認識に至っている。より多くのステークホルダーの参加の拡大は現在ベトナム全体で活発になっている市民社会運動の波とも相まって、より広義の利益の公正かつ衡平な配分のメカニズム (benefit-sharing mechanism) が必要とされている。そうした中で、生態系サービスへの支払い (PES) に関する政策を盛り込んだ法律が制定され、ダム開発によって移住した村落が新たにPESプロジェクトの対象地として決定した。その一例として、本研究プロジェクトのフィールド調査地のひとつでも、水力発電事業よって得られた税の歳入から水源地の森林保全に従事した住民に補助を出すといった、PES プロジェクトが開始されている。

本プロジェクトを通じて明らかになった強制移住の今後の課題や、研究活動よって得られた情報と成果を共有し、関係者との議論の場を設けることで、ベトナムにおける今後の開発計画とそれに伴って生じる強制移住問題を考える場として、2013 年 2 月 23 日にベトナム・フエ大学 (Hue University of Agriculture and Forestry) において、ワークショップ「Development-induced Displacement: Current Trends and Implications」を開催した。同ワークショップにはベトナム国内外の研究者、NGO 代表者、地方自治体の移住問題担当官、水力発電ダム計画の政府担当者ら、40 名超の参加を得た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①Jane Singer、落合 知帆、Hoang Hai “Community resilience after dam-induced displacement: ethnic minority villagers in central Vietnam” 査読有、Migration Studies、特別号、(2014)、掲載項未定

② Jane Singer、Hoang Hai、水野啓、小林広英、“Future research on dam-induced displacement and community adaptation and resilience in the highlands of central Vietnam”、GSGES Asia Platform Annual Report、査読無、(2011)、103-107

〔学会発表〕（計 5 件）

① Jane Singer、“Evaluating new approaches for enhancing livelihood security in Vietnam”、International Conference on Development-Induced Displacement and Resettlement: Bridging Research and Practice, Filling the Knowledge Gaps、2013 年 3 月 23 日、オックスフォード大学（イギリス）

② Jane Singer、“Displaced ethnic minorities in central Vietnam: Traditional knowledge and community resilience”、Workshop on Development-induced Displacement: Current Trends and Implications、2013 年 2 月 23 日、フエ大学（ベトナム）

③ Jane Singer、“Fostering participation for dam-displaced ethnic minority groups in Vietnam”、International Geographical Union, 32nd International Geographical Congress、2012

年 8 月 27 日、ケルン大学（ドイツ）

④ Jane Singer、 “Participation and empowerment for dam-displaced indigenous minority villagers in central Vietnam”、Asia Association for Global Studies, Seventh Annual International Conference、2012 年 3 月 19 日、国際基督教大学（東京都）

⑤ Jane Singer、Hoang Hai、“Policy and implementation in the resettlement of ethnic minority communities displaced by hydropower dams in central Vietnam”、World International Studies Committee (WISC)、Third Global International Studies Conference、2011 年 8 月 19 日、ポルト大学（ポルトガル）

〔図書〕（計 1 件）
① Jane Singer、“Bearing energy’s costs, in Fresh Currents: Japan’s flow from a nuclear past to a renewable future”、『Kyoto Journal』、Heian Bunka Center Publisher、(2012)、149-153

６．研究組織
(1)研究代表者
シンガー　ジェーン（SINGER JANE）
京都大学・地球環境学堂・准教授
研究者番号：00570003

(2)研究分担者
水野　啓（MIZUNO KEI）
京都大学・地球環境学堂・准教授
研究者番号：10260613

(3)連携研究者
小林　広英（KOBAYASHI HIROHIDE）
京都大学・大学院地球環境学堂・准教授
研究者番号： 70346097

(4) 研究協力者
落合　知帆（OCHIAI CHIHO）
京都大学・大学院地球環境学堂・助教
研究者番号：80582022

Hoang Hai　(HOANG HAI)
ダナン工科大学・環境学科・准教授